

創立 1986 年

2021～2022年度クラブ目標

『新たな奉仕に踏み出そう
ロータリーの次の百年のために』

会長 鈴木 孝 幸
幹事 須藤 正 樹



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～22年度国際ロータリーテーマ

第1680回例会

令和3年9月9日(18:30～19:30)



○ソング

- 四つのテスト

○スマイルBOX

- 鈴木孝幸会長（大竹会員、卓話ありがとうございました。大竹会員の半生を理解できました。これからも子供たちの夢の為にがんばって下さい。）
- 須藤正樹幹事（大竹会員卓話ありがとうございました。今日は久しぶりの晴れ間に車の洗車ができ気分がよいのでスマイルします。）
- 金田昇会員（先週のガバナー公式訪問対応ありがとうございました。めっきり涼しくなりました。）
- 関谷亮一会員（鈴木会長、須藤幹事、金田ガバナー補佐、ガバナー公式訪問に当り大変御苦勞様でした。藤田記念博物館の企画展を見て参りました。すばらしい企画でした。来週の例会では佐川学芸員の卓話ですので是非お楽しみに！）
- 青木大会員（今日、ワクチン接種2回目でした。若いので副反応が心配ですが、多分大丈夫だと思います。副反応がでない様にスマイルします。）
- 永野文雄会員（本日9月9日は旧暦ですと「重陽の節句」「菊の節句」なそうです。大竹憂子さん卓話ありがとうございました。）

▶第1680回例会出席状況

(R3年9月9日)

① 出席免除を受けていない正会員数	51名
② 出席免除の適用正会員数	14名
③ 全正会員数	65名
④ ①の出席者数	12名
⑤ ①のメイクアップ者数	0名
⑥ ②の出席者数	30名
⑦ = ④ + ⑤ + ⑥ (メイクアップ補填後の出席会員数)	42名
⑧ = ③ - (② - ⑥)	63
⑨ = ⑦ / ⑧ × 100 (例会出席率)	66.6%



▶例会日: 第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

鈴木孝幸会長



皆さん、こんばんは。本日もお忙しい中、例会に参加していただきまして誠にありがとうございます。先週のガバナー公式訪問例会には、沢山の皆様に参加していただきまして、フルスペックでのガバナー公式訪問開催ということで、無事大成功で終わることができました。志賀ガバナーもさすがは金田ガバナー補佐の所属クラブですねと喜んでいただきまして、素晴らしいガバナー公式訪問だったと思っています。会員の皆さん、ご協力大変ありがとうございました。ここで裏話というか、ガバナー公式訪問の準備でいろいろなことがあったので、来年、再来年のため公式訪問の回顧としてお話をしておきたいと思っています。ガバナーを迎えたのは、まず朝の会長幹事会が9時半開始の予定だったんですけども、昨年の吉野直前会長年度の実績から、石黒バストガバナーの時は予定時間の30分前には会場に会長、幹事は入って、ガバナーを余裕を持ってお出迎えしてくださいと指導があったということでしたので、我々今年度もわたくしも須藤幹事も、そして高畠次年度会長、車田次年度幹事も9時には会場集合しようというふうに決めておりました。ところが、志賀ガバナーものすごく早く会場にそれ以上30分前に来るという情報がありまして、また30分切り上げて結局会長幹事会開始の1時間前に会場入りするということになりました。ガバナー達は結局8時50分に來られて、無事お出迎え作戦が成功というふうな形でのスタートとなった次第であります。また、クラブ協議会ですが例年は我がクラブの進行方法は、まず各委員長一人一人が年度方針を説明しまして、それについてガバナーが一つ一つアドバイスをいただくというふうな方法を取っているんですけども、今年度の志賀ガバナーはそれに習わずに6月の会長幹事に送られてくる年度の活動計画のアンケートの資料があるんですけども、それに乗っ取っておこなってくれというふうな貴重な情報が藤田ガバナー補佐幹事のほうからなんと前日に入ってきてまして、ちょっと我々も早急にそのアンケートをガバナー公式訪問の当日の朝、40部ほど焼いて準備をして会場に来て、全く私と幹事とドタバタのスタートでありました。ところが、会長幹事会の中で最後に終わる時にクラブ協議会の進め方について確認をしましたところ、例年通りの進め方でいいですよということで例年通りの方法で進めさせていただきました。クラブ協議会に皆さんに配った資料の一番表紙にあったのが、実はそのバタバタの資料でありまして、皆様に非常に迷惑をかけたな

とここでお詫びをいたします。それで、会長幹事会終わってクラブ協議会の前半でレジュメ訂正ということで幹事のほうからお話があって話を進めさせていただきました。やっぱり何ごととも臨機応変に対応はできたんですけども、それ以前に事前確認は大切だということをお願いして、このドタバタをちょっと話させていただきました。各委員長も年度方針の話もスムーズに行われて、特に山口S A A委員長は多分途中で時間が余るんじゃないかなというふうな感覚あったんだと思うんですね。非常にそういった時間を意識した長い発表をしていただきました。その後、私が皆様に目安の時間として2分程度での発表をお願いしますということが功を奏したのかどうか、それともガバナーの的確なシンプルな話が功を奏したのか、結局予定どおりの12時ちょうどに終わることができました。やっぱり、30分前に終わらないと例会の準備ができないということで、非常に良い進行だったと思います。例会は皆さんもご存じのとおり、S A Aの時間調整もしっかり行き届き、いろいろ端折ったりしてしっかり調整しました。きっちりと終了時間を守った素晴らしい例会になったと思います。志賀ガバナーにも参加された会員の皆さんにも大変ご満足いただけた例会になったのかなと思います。しかしながら、今年度の志賀ガバナーの私たちの対応や指導、それと、昨年の石黒ガバナーと比較しますと、石黒ガバナーはまさにロータリアンはこうあるべき。そして、きっちりと折り目が通ったような指導というか、そういった印象を私は感じていました。対する志賀ガバナーは、我々に対してうるさい事を言わずにすべて良きに計らえという形で、信頼のもとに言ったことを尊重してくれるような指導でありました。まさに、これはロータリーのリーダーシップの話で、私は以前話させていただきましたロータリアンはフラットなリーダーシップというふうな話をさせていただきましたけども、まさにフラットなリーダーシップというのを実践しているんだなというふうに思った次第であります。石黒直前ガバナーも志賀ガバナーも全くタイプは違いますが、どちらも素晴らしい方でありました。この公式訪問の今の当日の話だけではなくて、実は遡って公式訪問の準備を幹事が一生懸命やってくれてたんですけど、ちょうどその時に私も仕事で、ちょっとここでは言えないんですけどが精魂尽き果てるようなことがあったので、ほとんどガバナー公式訪問のお手伝いは私はできてませんでした。すべて須藤幹事が行ってくれたということで本当に助かりました。須藤幹事を選んだ私も人の見る目は本当に正しいんだなとつくづく思った次第であります。須藤幹事、ありがとうございました。今後もいろいろ迷惑をかけますが、よろしくお願ひしたいと思います。ということで、ガバナー公式訪問の回顧という

ことであります。ありがとうございます。今月の月間テーマは、基本的教育と識字率向上月間、そしてロータリーの友月間ということで、雑誌広報委員会の担当例会であります。大竹委員長の卓話です。大竹委員長、今、西郷議会の準備の中で大変忙しいの存じておりますが、それと並行して卓話の準備どうもありがとうございます。今日の卓話は非常に期待しておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

■幹事報告

須藤正樹幹事

- 第2770地区ガバナー 松本輝夫、地区RLI委員長 大貫等：2021-2022年度オンラインRLIパート I 開催のご案内
- 福島県クリーンふくしま運動推進協議会 県南地域協議会 会長 山下勝弘：令和3年度福島県クリーンふくしま運動推進協議会県南地域協議会定期総会について（通知）
- 第2530地区ガバナー 志賀利彦、地区大会ゴルフ委員会委員長 吉田榮重、副委員長 吉田一巳、幹事 鈴木茂：国際ロータリー第2530地区2021-22年度地区大会記念チャリティー親善ゴルフ大会中止のご案内
- 比国育英会バギオ基金 会長 多田宏、総務担当副会長 斉藤実、幹事 平塚隆志：「バギオだより」配布のお願い

■委員会報告

○雑誌広報委員会

大竹憂子委員長



雑誌広報委員会の大竹です。「ロータリーの友」9月号の紹介をさせていただきます。まず初めに、横組みの5ページに「R I 会長メッセージ」が載ってますので是非ご覧ください。続きまして、まず横組みのほうから紹介させていただきます。7ページですが、リテラシーということで書かれた言葉を正しく読み書きできる力ということで、その力がもたらすものということで、8ページ9ページには東京王子RC60周年記念事業として、絵本作成された様子が書かれてますので、会長が園長先生ということでこのような取り組みをされたそうです。私は個人的には子供たちに読み聞かせに行っているの、すごくこの絵本に興味がありまして、是非私もこの絵本を読みたいと思いましたので、皆さんもこちらの紹介をご覧くださいになっていただけたら嬉しく思います。続きまして、12ページ13ページにいろいろなマークが出ているんです。こちらのマークですけど、皆さんは幾つご存じでしょうか。実はこれは、障がい者にとっては皆さんに覚えていただきたいマークなので、是非ここに載っているマークは皆さんに認識していただきたいと思いますので、覚えていただきたく思います。続き

まして17ページ、面白クイズです。ロータリアンなら一問5秒で回答ということなんですけどね。先輩方は皆さん5秒で答えられるんだろうなと思いながら、私もちょっと見てみたんですけど私はさすがに5秒では答えられず申し訳ありません。皆さんも是非ご覧になってみてください。続きまして、横組み32～33ページ「ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識」ということで掲載されています。やはり、私も米山奨学事業について細かく知らなかった部分もあるので、基礎知識ということですのでごく興味持って読みましたので、皆さんもご覧いただけたらと思います。次は、縦組みのほうで4ページから8ページのほうで「社会力育てが人類社会を救う」ということで、社会力と社会性の違い、また社会力をどう育てるかということが書かれているので、今いろんなこういう情勢の中なので、こういうことが大事なんだなという思いで私も見ました。皆さんも是非ご覧になっていただけたらありがたいと思います。続きまして、縦組みの20ページから26ページに「ロータリー・アット・ワーク」が載っていますが、特に福島ロータリークラブが「ゴミ拾いはスポーツだ」ということで掲載されているので、同じ福島県ということでちょっとご覧になっていただきたいなと思いました。以上で、「ロータリーの友」の紹介を終わりにさせていただきますが、他にもいろいろ興味深いものが沢山掲載されてましたので、楽しく皆さんに読んでいただけたら嬉しく思います。

○2021-2022年度県南分区ガバナー補佐 金田昇様



皆さん、こんばんは。先程、会長からもご報告ありましたとおり、先日ガバナー公式訪問につきましては、皆様にご協力いただきまして誠にありがとうございました。公式訪問の終了後、ガバナーを藤田君の所の藤田記念館に谷文晁展の準備がなされましたので、それを見ていただきました。その後、月曜日に白河南ロータリークラブの公式訪問がありましたので、それが終わってから南湖神社に参拝していただき宝物殿を見学していただきました。非常に白河の歴史と文化、伝統というものを感じ取っていただきまして、とても良かったかなと思います。ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。それと先程、地区のゴルフコンペが中止になったという件も含めまして、コロナの蔓延防止法延長と緊急事態宣言の延長等々で、非常に厳しい運営環境の中で、今後地区の行事はどうなるんだということで、皆さんご心配いただいております。基本的には計画どおり進めながら、事前に状況を見ながら柔軟に対応していくという方向です。そういうことで、ゴルフコンペは中止になりましたが、地区大会は規模を

縮小しながらハイブリットで行うということです。それから、地区の各委員会のセミナー等々も同様の形で行っていきますので、事前になるべく早く皆さんにご報告しながら参加していただけるようお願いいたします。その時には、何でもわからないことがありましたらご不安がありましたら、私のほうまで言っていただければ地区事務所と協議しながら進めていきます。より多くの方に地区行事に参加していただき、ロータリーの知識を深め、またご協力いただきながら進めていきたいと思いますので、これからまだまだ厳しい予断を許さない状況ですが、皆さんにご協力いただきたいことをお願いしまして報告といたします。

■本日のプログラム

雑誌広報委員会担当例会

○雑誌広報委員会

大竹憂子委員長



皆さん、改めてこんばんは。雑誌広報委員会担当ということで、実はロータリーであったり、「ロータリーの友」に関して熱く先輩方に語っていただこうと思ったんですが、大竹憂子、新人卓話もやってないだろうと言われてまして、この場をお借りして大変申し訳ないんですが、今回私の卓話ということで皆さんにお願いしなくちゃと思っています。大竹憂子に興味のない方には申し訳ない話かなと思いますので、よろしく願いいたします。まず、生まれた時からの話になります。実はおぎゃあと生まれたのは私、白河市南町のほうで生まれました。その時、生まれた時の名前は中村憂子でした。というのは、私の実の母と父は母方のほうに結婚を反対されまして、それで母方の親戚に値する白河市南町にある中村家という所に養女に行って、そこで婿に入るなら結婚を許すということで、母が養女にまず行って、そして父が婿入りという形で入りました。ですので、私は生まれた時は中村憂子だったんです。ですが、私はちょっと記憶にないんですが、生後3か月から5か月くらいの間ですね。その頃に父が耐えられず出てしましまして、それを後を追うように母も出てしましまして、私を連れて父方の実家である青森のほうに行きまして、そこで籍が変わりましてその後は山口憂子となったのです。青森と秋田を行ったり来たりというのは、なんか父方の実家のほうがリンゴ果樹園となんか果物屋さんを秋田のほうでやっていたので、青森と秋田を行ったり来たりするような幼少期はそんな生活を送ってしまして。その幼少期の中でも実を言いますと、何度も実家が母を連れ戻しに青森秋田まできて、連れ戻されてはまた籍を抜かれてということをしたらしく、私の幼少期だけで山口、鈴木、山口、鈴木、山口、鈴木と繰り返して、

小学生になる時に福島のようにやっとなどまることができまして、その時点から鈴木憂子という名前になりました。最初は、母方の実家の西郷のほうにちょっとだけお世話になりまして、一度だけ米小学校に入った事はあるんですけど、その後すぐに白河市のほうに引っ越したので、それからは白河第一小学校、そして白河中央中学校、それから今でいう旭高ですけども白河女子高という形で進んでいったんですけど。小学校から中学校に私はソフトボールをやっていたんです。中学校3年生に上がる時に膝の痛みを覚えまして、それで結局そのあと部活にも参加することができず、転々と病院を歩いて6軒目くらいに埼玉の防医大のほうに行きまして、やっとなる半月板損傷とわかったんですけども、その時にはもう随分碎けてしまっていて、一番大きい部分を残して取り除いたんですけど、その頃はまだ内視鏡でそういうのを取り除くというのがまだ始まったばかりだったので、その後が結構大変でして。ですから、そのあと結局3年生の時にちょうど受験を控えた時期にもう一度また手術をすることになりました。実は受験も卒業式も外泊許可、外出許可をいただいてそれで受験に行って卒業式へ行ってしまうという流れをしたんです。それで、どうにか合格はできて高校へ行ったんですが、やはりその後遺症といいますか、まだ中で結局くすぶってたんですかね。最終的には3回目の手術で残っている半月板と、あと軟骨とかすべて関節があるものを取ってしまい、今でしたら代わりのものを入れられるんですけど、あの当時は代わりに何かを入れるという事はなかったもので、未だに私は左足の膝のところは関節の間は何もないので、ちょっと激しい運動とかすると未だに足はパンパンに腫れあがってるとかしてるんですけど。それで、高校の時もやっぱり入退院がとても多かったものですから、3年生に上がる時に春休みで賄えないくらいのお休みを取ってしまったよって先生に言われて、ということは3年生に上がれないんだというのがあって、その時にたまたまと言ったらおかしいんですけど、専門学校にまだ申し込み期間があったもんですから、その時にじゃあ私は一年間専門学校に行きまして卒業式を皆と一緒に迎えようというような考えを起こしたんです。その時に、看護師と美容師どっちがいいかを考えて、私はこんな感じの人間ですので、やはり死に直面する看護師よりは一生に一度というものを一緒に迎えられる美容師というのがあるなとその時高校生の時に判断して、私は白河女子高を中退しまして、そして美容学校へ行ったんです。全然それに対しても悔いも何もなかったんですけど、美容学校行ってる間も女子高の先生がいつ戻ってくるんだと時々連絡をくださるくらい嬉しい事も学生時代あったりして、そういう時を過ごしてきて美容という仕事にすごくだんだん誇りを持つようになって、

本当に一生に一度に携われるこの仕事って凄いいなというふうに年を重ねるごとに思っていました。七五三だったり、成人式だったり、結婚式だったり、こんな素敵な日に一緒に過ごすことができる。こんな素敵な日を祝ってあげることができる。そのお手伝いができる。なんて素敵なんだろうっていうふうにだんだん思うようになって、本当に今もなかなかこのコロナの影響で美容師の仕事ができない部分はあるんですけど。婚礼もあまりやってませんし、エステのほうも担当してるんですけど、エステのほうも実際はやはりお客さんとの距離が近いという事でお客さんを取らないようにしてるもんですから、なかなか好きな美容師の仕事ができていないというのが今の現状です。だから、早くこれが終息してやはりそういう幸せな瞬間と一緒に過ごすことができたらいいなってというのが、今の私の本当の素直な気持ちですね。そこから、結婚したのは25歳の時でした。主人とは実は7年付き合ってた25歳の結婚式という形になったんですけど。その後、今度結婚式のあたりから病院にも通うようになって、それで3年ちょい通いましたけど、なかなか結局子供ができないというのがあって不妊治療という事で3年ちょっと行きまして、その時に病院の先生からそろそろもしかすると本格的に不妊治療しないといけなかなと言われて、そうですねという会話をしながら一か月後に病院の予約を取って一か月後に病院行った時に実は赤ちゃんが出来て、たまたまなんですけどそんなことがあってやっと長女を授かり、ぎりぎり30前で出産することができてという。なんか幸運にもと言ったらおかしいですけど、やはり出産するのにできれば30前という気持ちがあったので、その思いで病院のほうにも通ったりはしてたので、やはり出来た時は嬉しかったのがありますね。まさか二人目も授かることが出来るとは思ってなかったりして。これがまた、長女が生まれた年というのが8.27と言いまして、あの白河西郷で水害を受けたあの年なんです。ですから、生まれて3か月くらいの頃だったのですね。ここうちの娘と同級生の親御さんもいらっしゃるので、その頃の事ってすごくわかると思うんですけど、やはり出産を控えたお母さんも大変だったと思います。でも、出産間際のお母さんたちもこれも大変だったと思うんですね。私、実は、お盆に実家に帰ることができなかったの、たまたま8.27の前日8月26日にやっと里帰りができまして、そしたら夜中にあの状態で眠れない状態だったりとかして、それで8.27を体験して実家は金勝寺だったので、川がすぐそばにあるのでやはり避難命令とかが出たので避難所へ行くことになりました。私は子供もいるという事で畳がある所という判断をしまして、昭和町の集会所のほうにお世話になったんです。その時に、周りの方に助けていただいたり

もしたことがすごく印象的です。それから長男が生まれた時がこれが本当に不思議な話なんですけど、生まれて離乳食が始まる頃ですから、5か月か6か月くらいに主人の親が寝たきりになってしまったので、毎日大きいおむつと小さいおむつを取り替えながら、離乳食を作っているのか、それとも寝たきりの食事を作っているのかわかんないような、そういうドロドロのやつとかゼリーのとかを作ったりしながら、毎日そんなことをずっと4年半くらいやりまして。4年半、診た後に主人の母は亡くなったんですが、ちょうどその頃に息子が今度幼稚園に入ってからだったんですけど、その頃に亡くなったんですけど。その時に、幼稚園に入ってからがすごいもう衝撃的な事ばかりでしたね。介護のほうに手をかけ過ぎたのか、息子に手をかけ過ぎなかったのか、本当申し訳ないと思う気持ちが沢山ありまして。息子の一緒に食事をやっとな出来た頃になってびっくりしたのが、うちの息子がご飯の上に一番最初はロイズのチョコのかかったポテトチップスありますよね。あれを持ってきて粉々にしてご飯の上へかけて食べ始めて、ええっと思って本当にその時に三つ子の魂ってこういう事かってしみじみ思いました。それまで、三つ子の魂ってという言葉聞いてもなんだろうって思ってたんですけど、やっぱり子育てって3つまでが大事なんだなというのをすごく痛感しまして、それから食生活とかを直そうと思ったんですけど直らないんですね。どんなに努力してもなかなか直らなくて、結局大きくなるまで直ってはいくれなかったんですけど。だから、未だに三つ子の魂大事だになってすごく思ってたして、孫がもしできたんですね。それをこんこんと私は子供たちに伝えたいと思います。3つまでが勝負だよって言ってあげたいなと思ってますね、今は。そのくらいやっぱり3つまでに手をかけなかったことに今もすごく後悔というものがありまして、主人の親が亡くなって子供たちが学校とか幼稚園とか行くようになりまして、そうしてるうちに今度、学校のほうだったり幼稚園のほうだったりいろいろ役とかやらせていただきまして。そんなことを過ごしてるうちに子供たちと携わってることがすごい楽しいのと、あとはやはりその水害の時に経験して人のお世話になったりしたこともあるためか、人のために何かできることないかなと思うようになりまして、それも多分時間ができるようになったからなのかもしれないんですけど。そういう形で子供たちや学校と関わりを持つようになって、そうしてるうちに気付いたら中学校の会長までやってみたりとか、そんな形になってたんですけど。役員をやらなくなってからは、本当西郷のほうで放課後子供教室行ってみたりとか、もちろん読み聞かせも未だに行ったりはしてるんですけど。ただ、最近はこのコロナの事情で読み聞かせにもなか

なか行けないというのがまたこれが寂しい話でして。子供たちが絵本をこう読んであげてる時に、もの凄いキラキラした目で見てるんですよ。その顔ったら本当に何とも言えないんですよ。本当に未来を夢見てるそのキラキラした顔みたいに見えちゃって、その顔を見るのがとても私は大好きで、未だにやっぱりどうしても機会があれば行きたいと思ってますし。そんなことをやって子供教室のほうとか携わったりいろいろしてるうちに、子供たちのアンケートの結果とかそういうのを見せられるようになって、たまたま見た時に西郷村は好きですかという質問に、なんと8割強、9割近くの子供が西郷村は大好きと答えたんですよ。それで次に、大好きな西郷村に皆さんは戻ってきたいと思えますかという問いに対して、戻ると答えたのが2割ちょっとだったんです。なんか寂しいなと思っていて、そしたらずっと後のほうになって西郷村でそうやってボランティアのように活躍してくださる皆さんをどう思いますかっていうような問いがありまして、そしたら凄いか大好きとかいう項目の所に○が付いて、それがやっぱり8割あったんですよ。8割ちょっとですけどね。皆さんが大きくなってからそういう活動をしたと思いますか、ボランティアをしてみたいと思えますかという問いに対して、2割を切っちゃってなんとなく寂しい思いがすごく心の中をざわつちやいまして。その子供教室行ったり、また読み聞かせ行ったり、あとはボランティアで学校のお手伝いに行ったりした時に、子供たちに同じようなことを私聞いかけたんですよ。そしたら、同じようにやっぱり言葉が返ってきまして、返事が返ってきまして、それでああ皆そうなんだと思って。じゃあ、どうしてって何でって聞いたたら、小学校1年から3年生の低学年の子供なんですけど、「だってさ、憂子先生さ、西郷戻ってきてさ、自分のやりたい事やろうと思ったらさ、借金しなきゃならないよ。」って。「なんで。」って聞いたたら、「だって、会社作るんだって何だって借金必要でしょ。」って。「それが上手いかなかったら、ただ借金背負って俺どうやって生きてくの。」って言うんですよ。小学校1年生から3年生の子供ですよ。ものすごい衝撃的で、七夕の短冊になんか、夢ユ－チューバーとか書いてる子供が、私の問いに対してそういう答えを出してきて、なんかすごくショックを受けまして。なんかこの子供たちが、じゃあ10年後、戻ってくる村にならないのかなって、そんなことを思うようになります。そのためには、じゃあ皆さんどうにかしてくださいよ。企業誘致とかやったり、いろいろしてくださいよとかって一生懸命掛け合ってみたんですよ。でも、なかなか動いてくださる方がいらっしやなかった。そして、じゃあそっか、話しを通す側に私が回ったらもしかしたらその実現できる可能性ある

んではないかと思って、いきなり準備もせずに選挙出ますって言って、現在の流れになっているんですけど。あの時も周りにも本当驚かせてしまうほど、急な話で勝手にそんなことを決めてしまったという感じでしたね。でも、きっかけは本当に子供たちのその言葉でした。夢を持っていたいのになかなかその夢に向かって頑張ろうという意識が持てないって、その状況っていうのがすごく辛いなってすごく思いましたので、それを何か変えられないかなってそう思うのは今も同じです。だから、一つでも二つでもちょっとした小っちゃな事でも叶えることができたなら嬉しいなと思って、今もこつこつとちょっとづつですが活動しながら、最近で言いますと本当に小さな話かもしれませんが、一番身近なところでいうと障害児の親御さんから相談受けたら、そういう施設を1件でも2件でもただでほしいという形で皆さんに声かけて歩いてみたりとか、またそれが出来るのであれば自分がスタッフとして働いてもいいと思って。今は、放課後デイサービスのほうを手伝ったりもして。また、そこで障害児の子供たちと毎日、毎日は無理なんですよ。議会で議員活動がある時はどうしても出れないので、なかなか毎日子供たちと会えないんですけども。でも、会えるとそれが楽しくて楽しくて、もう健常児も障害児も一緒だなと思って、もう可愛くて可愛くてしょうがなくって。それで今、私は一番楽しい時間をいただいているかもしれません。今回も議会中ではありますが、一つでも二つでも何か取り組める事があったらと思って、来週また一般質問させていただきますが、今回はちょっと前回に難聴者の方のための線音源スピーカーというものを取り付けていただきたくて一般質問した件で、役場の方達も議員さん達も、もちろん村長さんもそういうスピーカーがあること自体知らなかったもので、それを調査した上で是非村のほうで取り組んでいきたいという話があったもんですから、その後の調査、そしてまた取り付けてくれるのかどうかを確認を来週したいなと思っています。あとは、やはりこのコロナの影響で、いじめだったり虐待だったり、ヤングケアラー、自殺、これが増えてるのは間違いないので、それに対して西郷村はどのような対策を取ってるかを、細かく質問してみたいかなというふうには今も思っています。白河であろうが西郷であろうが、子供たちだったりお母さんのためだったりってなるような事があったら、是非是非私のほうにこういうの取り組んでみないかって、お声がけいただけたら私はとても嬉しく思いますので、皆さんからそのようなお話をいただけることを期待して、なんか興味のない方には本当に申し訳ないお話でしたが、卓話を終わらせていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。